# スペインのワイン・ブドウ果汁在庫、9月末に14.8%増の6,150万ヘクトリットル

国内消費が6.5%減、輸出量が13.9%減となるなか、スペインのワイン・ブドウ果汁在庫が増加

2026年11月16日（月）



スペインワイン業界団体（OIVE）がまとめた市場データによると、国内消費と輸出が引き続き減少するなか、9月30日時点のスペインのワインおよびブドウ果汁の在庫は大幅に増加した。

この数字は、供給が増える一方で、それを吸収する需要が減少している市場の状況を示している。9月末時点のワインと非濃縮ブドウ果汁の在庫は計6,150万ヘクトリットルで、2025年9月30日と比べて14.8%増加した。増加分は790万ヘクトリットルだった。このうちワインの在庫は29.4%増の5,360万ヘクトリットル、非濃縮ブドウ果汁の在庫は790万ヘクトリットルとなった。

OIVEによると、収穫が例年より早かったことが在庫増加の一因となった可能性がある。新しい収穫

年の産品が通常より早く貯蔵に回ったためだ。それでも、在庫が積み上がったのは、国内市場と輸出市場の双方が弱含む時期に当たる。

2026/27販売年度の最初の2カ月間のワイン生産量は2,940万ヘクトリットルに達し、前年同期比で26％増加した。OIVEによると、前販売年度の同時期と比べて約600万ヘクトリットル多かった。

一方、9月までの12カ月間の国内ワイン消費量は推計890万ヘクトリットルとなり、6.5％減少した。2025年9月までの12カ月間と比べると、消費量は617,427ヘクトリットル減ったことになる。

輸出データも引き続きマイナスとなった。スペイン税務庁（AEAT）の8月までのデータを基に、OIVEは1～8月のスペインワイン輸出量が13.9％減の1,120万ヘクトリットルだったと発表した。輸出額は6.8％減の17億7,190万ユーロで、前年同期から1億2,870万ユーロ減少した。

在庫の増加、国内需要の縮小、海外出荷の減少という組み合わせは、ワイン生産者だけにとどまらない影響をもたらす。飲料事業では、売れ残り在庫の増加が価格への圧力を強め、資金を在庫に拘束し、流通やマーケティングに一層の取り組みを迫る可能性がある。また、ワインがビール、蒸留酒、RTD（そのまま飲める飲料）など他のカテゴリーと競うなかで、売り場の棚や消費者の関心をめぐる競争が激しくなることも考えられる。

9月のデータでは、工業用またはその他の用途に振り向けられるワインも増加した。2026/27販売年度の最初の2カ月間に、生産者の自家使用、蒸留、食酢製造に回された量は合計279,188ヘクトリットルで、10.5％増加した。このうち生産者の自家使用は206,842ヘクトリットルで、11.9％増。蒸留向けは35,548ヘクトリットルで44.6％増、食酢製造向けは36,798ヘクトリットルで14.7％減だった。

輸出額より輸出量の落ち込みが大きかったことから、価格や製品構成が売上への影響を和らげたものの、出荷減を補うには至らなかったことがうかがえる。8カ月間で輸出量が180万ヘクトリットル減少したことは、生産の一部を海外市場に大きく依存する国にとって重大だ。

在庫データは、スペインのワイン市場情報システム「INFOVI」に基づく。OIVEはこれらのデータを使い、9月末の在庫を前年同日と比較した。果汁の在庫増は特に顕著で、非濃縮ブドウ果汁は2025年9月30日から612.1％、180万ヘクトリットル増加した。

輸入は輸出とは逆の動きを示した。OIVEが引用した同じAEATのデータによると、1～8月のスペインのワイン輸入額は10.4％増の2億2,340万ユーロ、輸入量は49％増の775,827ヘクトリットルだった。輸入量は前年同期から255,629ヘクトリットル増加した。

一連のデータは、新しい販売年度が進むなかでスペインのワイン業界が難しい需給の均衡に直面していることを示している。シーズン序盤の生産水準は高かった一方、9月までの国内需要と8月までの海外需要を示す指標はともに低調だった。ワインとブドウ果汁の在庫が増えるなか、ワイナリーから流通業者までサプライチェーン各社は、今後数カ月、価格設定や資金需要、販売の実行状況をこれまで以上に注視することになりそうだ。